

第3回 仁淀川流域治水協議会

議事録

日時：令和2年11月26日(木) 10:00～12:00

場所：高知河川国道事務所4階会議室

1. 出席者

- ・高知市長 岡崎 誠也（代理出席：都市建設部副部長 石川隆夫）
- ・土佐市長 板原 啓文
- ・いの町長 池田 牧子
- ・仁淀川町長 大石 弘秋
- ・佐川町長 堀見 和道（代理出席：建設課課長補佐 藤本雅徳）
- ・越知町長 小田 保行
- ・日高村長 戸梶 眞幸（代理出席：建設課長 前田修平）
- ・高知県危機管理部長 堀田 幸雄（代理出席：危機管理部副部長 竹崎幸博）
- ・高知県土木部長 村田 重雄（代理出席：土木部副部長 浦田敏郎）
- ・高知県農業振興部長 西岡 幸生（代理出席：農業振興部農業基盤課長 豊永竜二）
- ・高知地方気象台長 佐伯 亮介
- ・四国地方整備局高知河川国道事務所長 多田 直人
- ・四国地方整備局大渡ダム管理所長 市原 道弘

2. 議事

事務局より、規約の変更、仁淀川水系流域治水プロジェクトについて説明。

○（高知市）

本川が氾濫する前に支川が氾濫しているという現象は全国的に発生している。仁淀川の支川の対策が必要だと認識するとともに、安全な避難のためには仁淀川本川の避難勧告を待っていては、危険な状況になることを認識した。早期避難が重要だと考えており、一緒に考えていきたいと思う。

○（仁淀川町）

流域の治水対策を進めていくためには、流域の7～8割を占める森林の適正な管理が重要だと思っている。高知県の林業振興・環境部や四国森林管理局にも協議会に参画していただきたい。

○（いの町）

いの町では、宇治川の問題とは別に、右岸側の鎌田用水の問題があるため、土佐市と連携して対策を進めていく予定である。事前防災は功を奏しており、平成30年の出水では

新宇治川放水路がなければ床上浸水があっただろうということで恩恵を受けている。一方で、いの町には無堤地区があるので、今後、連携を深めて一つひとつ取り組んでいきたいと考えている。

○（土佐市）

土佐市としてやれるところをやっ払いこうと仁淀川流域治水推進検討委員会を庁内に立ち上げた。居住誘導区域と家屋倒壊のおそれがある区域が重複していることについては、簡単に解決はできないが、できることから予算化して進めていきたい。また、農地基盤整備の機会を捉えて治水対策を実施するためには、農地部局との連携が必要である。気候変動への対応としては、2040年には流量が2割増になると試算されているので、それに向けて仁淀川全体の治水安全度を上げていくことが必要であり、支川も含めて整備を進められるよう、河川整備計画を改訂していただきたい。鎌田用水の問題は当事者としては大きな課題で、数年に1回は街なか浸水している。製紙会社なども鎌田用水からの越水で浸水しており、産業分野に大きな被害が発生している。鎌田用水についても、明確な流域治水対策（案）を示していただきたい。

○（高知河川国道事務所）

居住誘導など調整していくきっかけが流域治水となれば良い。今回から高知県農業振興部にも構成員に入っていており、一緒に議論しながら進めていきたい。仁淀川の整備計画については、気候変動も踏まえて現状よりも治水安全度を下げないように実施したいと思っている。支川整備についても、避難のしやすさと県内河川の河川整備とのバランスを考えて進めていく。鎌田用水については整理ができ次第、流域治水対策（案）を示していきたい。

○（越知町）

大渡ダムや筏津ダムの放流量を目安に浸水の恐れがあるところを把握しているので、住民に連絡をして、暗くなる前に逃げていただけるようにしている。平成17年の洪水では標高61m、平成26年のときは標高62mまで浸水しており、ここまできると日常生活を送ることが苦しくなることから、治水対策を進めて欲しいと強く要望が挙がっている。河道閉塞については、越知町では江戸時代にあちこちで碑がたてられており、平成26年のとき、支川では土砂の崩壊が起きていて、河道閉塞しかけていたことがあった。桐見ダム上流で山腹崩壊し、河道閉塞を起こして決壊すればいの町、土佐市まで水が流れ込むというシミュレーション結果もあり、上流の森林整備は非常に重要だと感じている。また、全国から仁淀川を求めて観光でいらっしゃる方もいるので、対策の実施にあたっては、河川環境に配慮する必要があると考えている。環境についてはもっと強く書いてもらってもよい。

○（高知河川国道事務所）

中流部の地域では、ダム放流情報を見ての避難でも良いかもしれないと思っているが、も

う少し具体の議論ができると良いと考えている。河道閉塞、土砂災害等については、過去の分析も使いながら、重要性を訴えていくというようにしたいと思っている。環境のウエイトを上げながら、流域治水対策として何ができるのか考えていく。

○（日高村）

日高村では、今まで八田堰や上流にある鎌田堰の築造など水との戦いがあったが、八田堰の改築なしには抜本的な流下能力向上は困難であるということで非常に関心がある。現在、日高村では総合治水条例を策定しようとしており、盛土などによって浸水区域を拡げない、床上浸水家屋を増やさないという思いがあるものの、村で出来ることは限られており、国の法律体系の範囲を超えることができない。特定都市河川浸水被害対策法の中に組み込んでいただきたいと思っている。

○（佐川町）

雨のたびに山からの谷水による洪水に住民は不安を感じている。森林の整備が行き届いていないことが原因の一端として挙げられている。支川の流域対策として、森林整備に踏み込んでもらうことはありがたいと考えている。また、佐川町では柳瀬川の水位を目安に避難勧告の発令をしているが、過去には、避難勧告を解除した後に仁淀川の水位が上昇したことがあった。避難勧告を解除後に、仁淀川を対象とした避難勧告を再度発令する必要があるかどうかを含めて、どのタイミングで避難勧告を発令するべきかを検討する必要があると感じている。

○（高知県農業振興部）

鎌田用水については、今後、国土交通省や高知県土木部と協議して問題を解決する良い機会だと考えている。波介川流域では、田んぼの貯留効果は高いと考えられるが、整備にあたっては農業者との調整が必要なので、皆様と連携しながら進めていきたい。農地基盤整備とあわせて調整板を設置するという事も可能である。森林や農地の荒廃についても問題意識を持っており、中山間地等直接支払制度もあるので、活用してもらいたい。

○（高知県危機管理部）

ソフト対策については、夜間の避難のタイミングが重要だと感じている。予算の動向も提示いただければと思う。

○（高知県土木部）

支川流域の避難対策と併せて、本川の河道整備も並行して進めていただきたい。特に、一度破堤すると深刻な被害が発生することから、破堤対策を進めていくことは重要である。

○（高知地方气象台）

ハードとソフトの両輪で進めていくのが重要であると感じた。雨の予測については、も

っと精度を上げていかないといけないと考える。これは気象庁の大きな課題であるが、現状の予測精度について皆さんに理解、合意していただいたうえで利用していくことが必要であるとする。仁淀川に特化した情報も発信していくのが良いと考えているが、注意報や警報などの防災気象情報は、段階的に発表しており、これらの情報との整合性も検討することが必要であろう。また、情報伝達の仕方も検討する必要がある。加えて、自主防災組織の人材育成など平時の取組も重要である。最初から100点を取るの難しいが、100点に近づくように技術力をあげていきたい。

○（大渡ダム管理所）

ダム放流に伴う振動や臭いについては、引き続き対応していきたい。事前放流については、利水ダム管理者と調整しながら実施していきたいと考えている。ダムの放流量についても引き続き皆様に情報提供していく。

○（土佐市）

流域治水という考え方の中に様々なセクターが力を合わせて治水安全度を上げていくという部分がある。行政だけでなく、他機関、NPO等団体にも広がりを持って活動できるような仕組みづくりを検討していただくと良いなと感じている。仁淀川漁協が黒森山の植樹活動を行っているが、森が川を作りというような連関になっており治水対策にもつながっていくので、過去の事例を参考に進めてもらえるとありがたい。

○（越知町）

予算の話もされていたと思うが、今後どういった流れになっていくのか教えてほしい。

○（高知河川国道事務所）

今後どのような流れになるかは定まっていないが、法律、予算などあらゆる面で、流域治水を支援する取組は進んでいると感じている。手探り感も強いが、情報が決まり次第共有したい。

○（高知河川国道事務所）

今回の議論をもとに、次回の協議に向けて検討させていただく。どんどん具体的に落とし込んでいきたいのでご意見等いただきたい。

以上